

第4回部会における主な指摘事項と対応について

指摘内容	対応
<p>魚類等の主成育場について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロダイだけでなく、他の魚類等についても、湾奥部を主成育場として利用しているのか精査が必要。また、主成育場の図は平成14年の文献であるが、現在も同様に考えてよいのか精査が必要。 ・湾奥部が魚類等の主成育場として、単に「よく利用されている」という表現ではなく、環境面で問題がありながら利用されている場所、というような表現にすべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成14年に作成された文献によると、第2回部会資料4の図33に示したとおり、湾奥部はクロダイのほか、コノシロ、スズキ、マコガレイ、ヨシエビ、ガザミ等の主成育場として利用されており(図1)、また、府立環境農林水産総合研究所によると、一般に、海域環境に大きな変化がない限り、魚類等の主成育場の分布に大きな変化は見られない。実際、平成26年に実施された調査(大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査)(表1)においても、湾奥部で、マコガレイやガザミ、ヨシエビ等の幼稚仔が確認されており、現在も、主成育場として利用されている。 ・平成5～8年に大阪府立水産試験場(現大阪府立環境農林水産総合研究所)が実施したマコガレイ・ガザミ・ヨシエビの調査結果(図2)によると、湾奥部において8月に幼稚仔の個体数が大きく減少しており、これは、貧酸素水塊の影響を受けているためとされている。また、上記の平成26年の調査結果によると、底層DOが低下している時期に幼稚仔の個体数が大きく減少している。 ・以上のことから、湾奥部は、貧酸素水塊が発生するなど、魚類等の生息にとっては厳しい環境にある中、主成育場として利用されている場所である。 このことを整理して、資料2に示した。
<p>「将来像に係る主なキーワード等」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この表にまとめられているのは、キーワードではなく、コメントである。 ・ゾーン1に係る記載内容について、重複もみられるので整理すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表のタイトルを「将来像に係る主なコメント」に改めた。 ・重複を整理し、全般に関するもの、生物に関するもの、水質に関するもの、潤い・海とのふれあいに関するものに分類して示した。 ・また、海域の特徴付けに関するコメントについては、「表1 各ゾーンの特徴づけ」に記載した。
<p>「環境保全・再生の基本的考え方(案)」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「基本的な考え方」として示されているものの中に、具体的な施策が混在しているので、整理すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「基本的な考え方」としては、将来像の実現に向けて「こうあるべき」というものに絞って整理して記載した。 ・「基本的な考え方」を踏まえて進めるべき具体的な施策については、次の「施策のあり方」に整理して記載した。

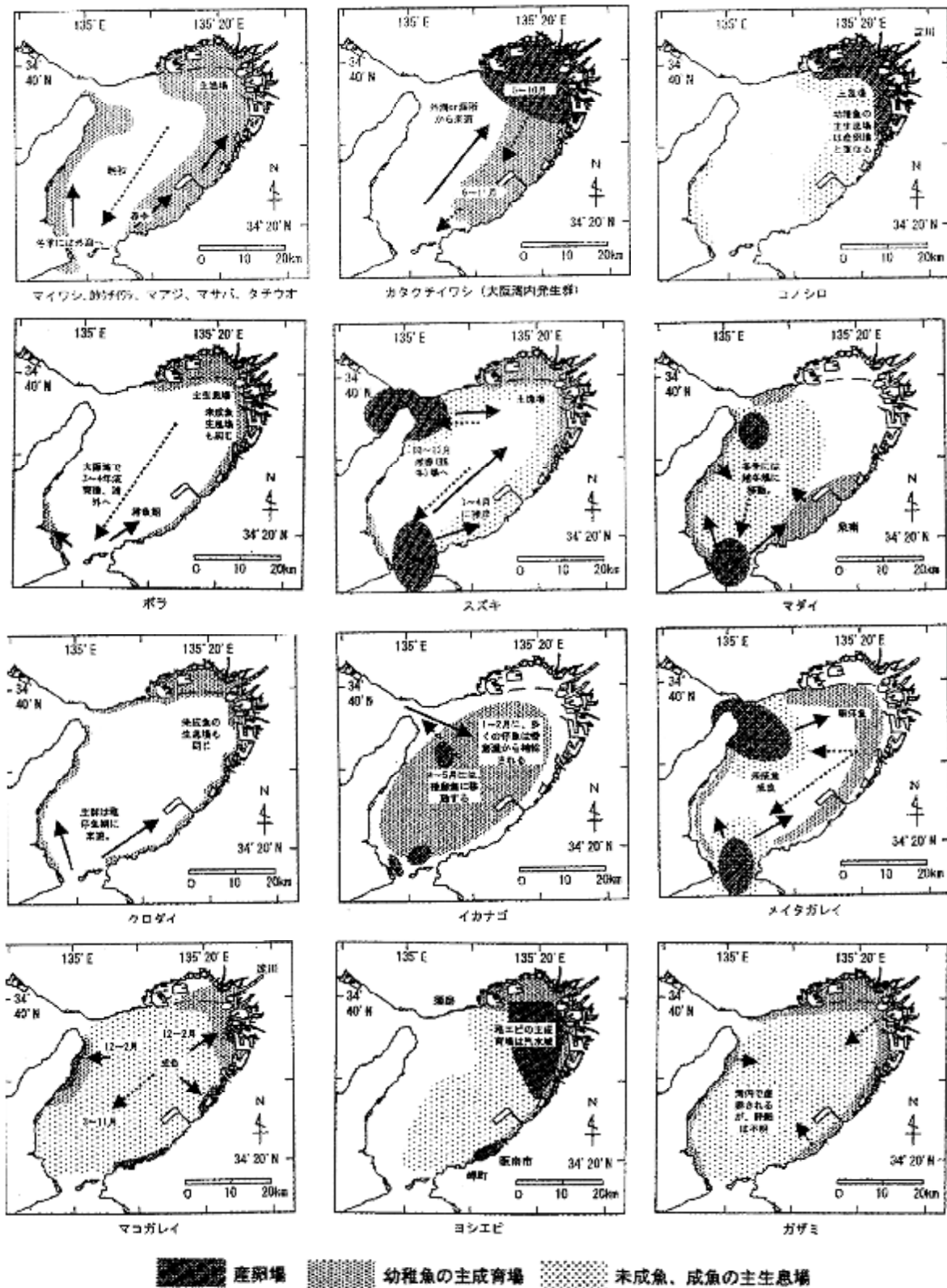


図1 大阪湾における魚類等の主成育場(平成14年11月 社団法人日本水産資源保護協会「大阪湾の海域環境と生物生産」)

表1 平成26年5月～10月における湾奥部での魚類等の調査結果

(大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査報告書より抜粋
国土交通省近畿地方整備局、大阪市港湾局、大阪湾広域臨海環境整備センター)

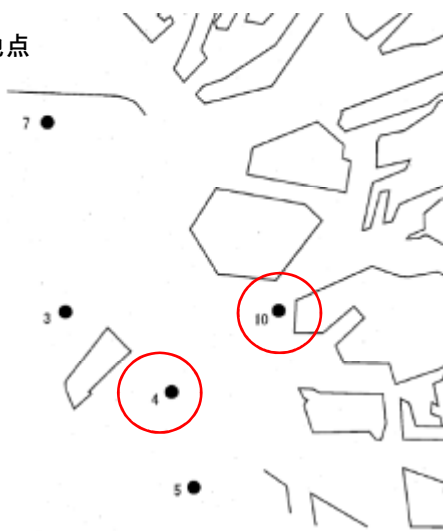
地点4

調査日	底層DO mg/L	種類数	個体数	主要種個体数	確認された個体の全長の平均 (cm)		
					マコガレイ	ガザミ	ヨシエビ
5月7日	5.9	17	252	ハタタテスメリ 99、テンジクダイ 50	7.3	—	—
5月22日	6.5	20	179	ハタタテスメリ 58、アカシタビラメ 30、 マコガレイ 23 、テンジクダイ 18	7.7	—	—
6月6日	6.1	19	390	ハタタテスメリ 110、テンジクダイ 67、シャコ 48	8.5	—	—
6月19日	2.1	14	199	シャコ 111、ハタタテスメリ 25	—	—	—
7月3日	1.8	3	26	シャコ 22、イシガニ 3	—	—	—
7月17日	1.2	2	3	シャコ 2、カタクチイワシ 1	—	—	—
7月31日	2.3	3	8	シャコ 6、シマイサキ 1、ハタタテスメリ 1	—	—	—
8月12日	4.0	6	12	マコガレイ 4 、サルエビ 2、テンジクダイ 2、シマイサキ 2	10.7	—	—
8月29日	1.5	0	0	出現種なし	—	—	—
9月11日	2.2	2	2	ヨシエビ 1 、 ガザミ 1	—	5.6	8.2
9月24日	3.2	9	150	サルエビ 103	—	—	14.9
10月9日	5.7	15	1949	サルエビ 1509	—	—	—
10月23日	5.9	16	685	スベスベエビ 259、シャコ 109、サルエビ 94、アカエビ 91	—	2.2	11.9

地点10

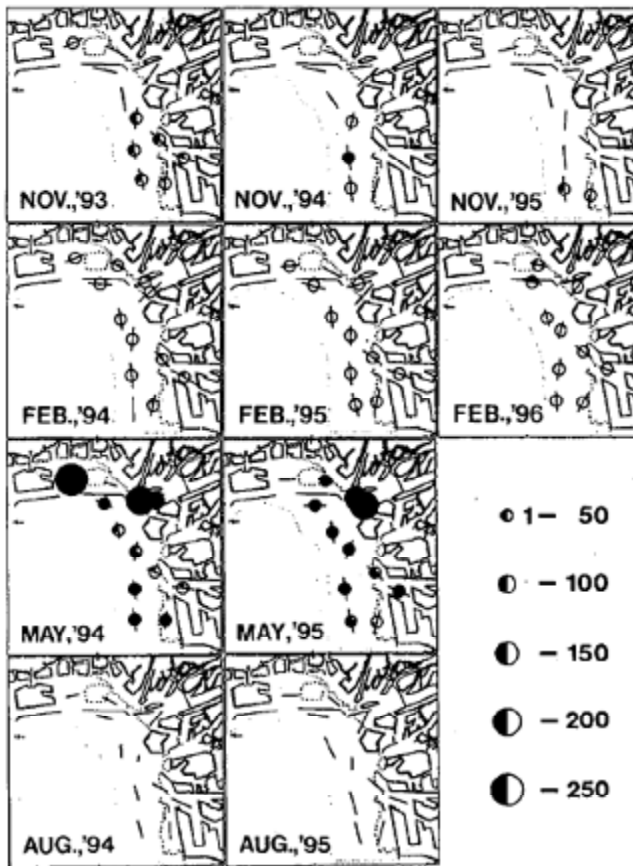
調査日	底層DO mg/L	種類数	個体数	主要種個体数	確認された個体の全長の平均 (cm)		
					マコガレイ	ガザミ	ヨシエビ
5月7日	6.8	15	37	アカエイ 5、 マコガレイ 5 、アカシタビラメ 5、 ガザミ 4	6.5	4.2	—
5月22日	6.4	14	67	マコガレイ 16 、テンジクダイ 15、ハタタテスメリ 10	7.9	—	—
6月6日	4.6	15	77	マコガレイ 25 、ハタタテスメリ 11	8.4	13.9	—
6月19日	2.6	19	576	ハタタテスメリ 263、スジハゼ 75	—	—	11.8
7月3日	3.1	9	69	ヨシエビ 27 、シャコ 24、 ガザミ 8	—	4.3	11.1
7月17日	2.1	3	20	シャコ 16、 ヨシエビ 2 、イシガニ 2	—	—	15.3
7月31日	2.0	7	64	シャコ 25、スジハゼ 15、 ヨシエビ 14 、イシガニ 7	—	—	10.5
8月12日	3.1	3	3	サルエビ 1、アカエイ 1、テンジクダイ 1	—	—	—
8月29日	3.0	2	2	イシガニ 1、ヒイラギ 1	—	—	—
9月11日	1.3	3	4	ガザミ 2 、クマエビ 1、イシガニ 1	—	4.9	—
9月24日	3.4	7	15	イシガニ 5、サルエビ 3、クマエビ 2、アカエイ 2	—	—	—
10月9日	5.4	19	530	サルエビ 392	—	—	—
10月23日	5.4	19	214	アカエビ 56、サルエビ 50、テンジクダイ 28	—	3.6	—

調査地点

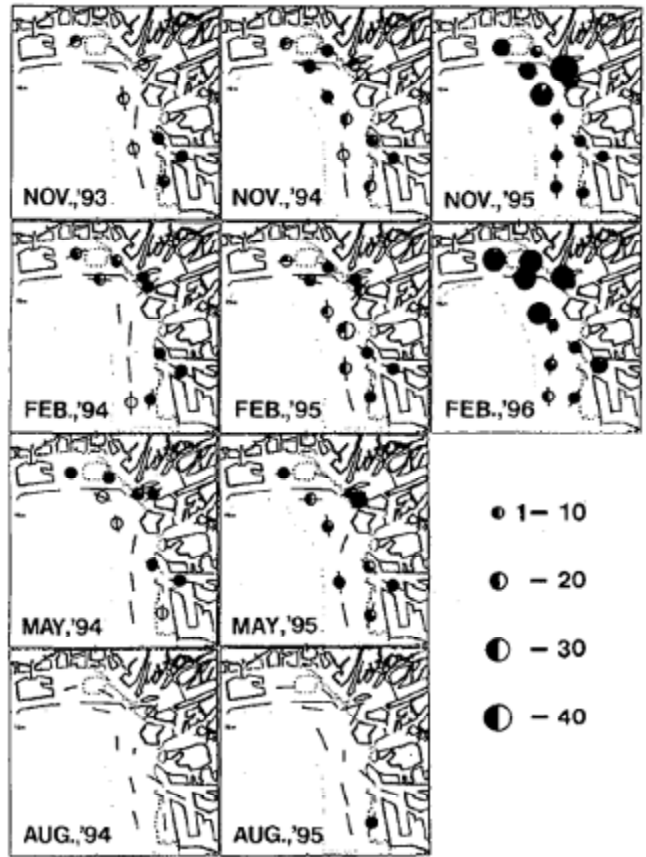


注)

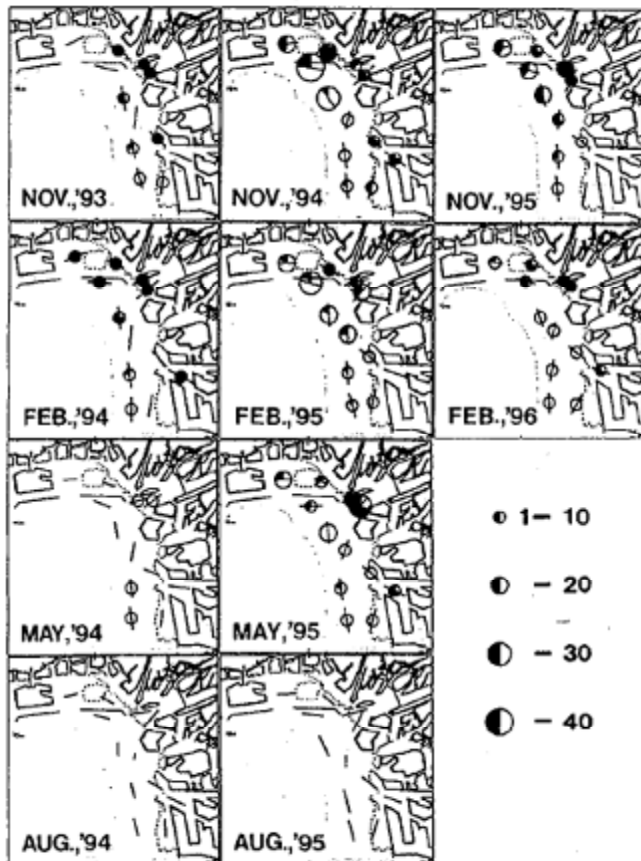
- ・底層DOは海底面上1.0mの値。
- ・調査方法は小型底曳網による。
- ・主要種個体数は、各測定点での個体数の上位5種のうち、組成比率が10%以上のものを示す。



マコガレイ



ガザミ



ヨシエビ

注)

- ・調査方法は底曳網による。
- ・円の大きさは、それぞれの地点で確認された個体数を示す。(数はそれぞれの凡例を参照)。
- ・黒塗り部分は全長・甲幅が100mm未満のものが占める割合を示す。
- ・白抜き部分は全長・甲幅が100mm以上のものが占める割合を示す。

図2 湾奥部におけるマコガレイ・ガザミ・ヨシエビの季節別・サイズ別の分布
(有山啓之ら「大阪湾奥部における大型底生動物の動態について」1997年 沿岸海洋研究)